

平成29年2月定例会 県土整備委員会（付託）

平成29年3月1日（水）

〔委員会の概要 企業局関係〕

島田委員長

ただいまから、県土整備委員会を開会いたします。（10時32分）

直ちに、議事に入ります。

これより、企業局関係の審査を行います。

企業局関係の付託議案については、さきの委員会において、説明を聴取したところですが、この際、理事者側から追加提出議案について説明願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【追加提出議案】（資料①）

- 議案第69号 平成28年度徳島県電気事業会計補正予算（第1号）
- 議案第70号 平成28年度徳島県工業用水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第71号 平成28年度徳島県駐車場事業会計補正予算（第1号）

【報告事項】

な し

黒石企業局長

今議会に追加提出させていただきました、徳島県電気事業会計及び工業用水道事業会計並びに駐車場事業会計の平成28年度補正予算につきまして、御説明申し上げます。

お手元の県土整備委員会説明資料（その3）の1ページをお開きください。

平成28年度徳島県電気事業会計補正予算についてでございます。

まず、（1）業務の予定量のア、供給電力量でございますが、当初予定しておりました供給電力量に比べまして、水力発電所で4,868万9,298キロワットアワーの増加となる、3億7,478万9,298キロワットアワーを、また、太陽光発電所で60万620キロワットアワーの増加となる523万6,620キロワットアワーを予定しております。

イ、建設改良工事につきましては、既設設備改良工事で3,154万4,000円の減額となる、8億5,183万4,000円を予定しております。

次に、2ページから3ページの（2）収益的収入及び支出についてでございます。

2ページをお開きください。

収入としまして、電力料の増額8,939万5,000円など、補正前に比べまして収入全体で1億456万7,000円の増額となる34億2,606万1,000円を計上しております。

次の、3ページの支出としまして、人件費の減額7,657万9,000円など、補正前に比べまして支出全体で6,553万7,000円の減額となる29億6,825万9,000円を計上しております。

以上、記載はございませんが、収入の計から支出の計を差し引いた純利益としまして、補正前に比べまして1億7,010万4,000円の増額となる4億5,780万2,000円を予定しております。

続きまして、4ページから5ページの（3）資本的収入及び支出についてでございます。4ページをお開きください。

収入としまして、固定資産売却代の増額7万8,000円、補正前に比べまして、収入全体でも同額の増額となる4億7,301万5,000円を計上しております。

続きまして、5ページを御覧ください。

支出としまして、建設改良費の減額3,154万4,000円など、補正前に比べまして支出全体で3,124万4,000円の減額となる17億5,213万4,000円を計上しております。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額12億7,911万9,000円につきましては、過年度分損益勘定留保資金などで補填することとしております。

次に、6ページをお開きください。議会の議決を経なければ流用することのできない経費として、職員給与費を、補正前に比べまして7,657万9,000円減額するものでございます。

続きまして、7ページを御覧ください。

平成28年度徳島県工業用水道事業会計補正予算についてでございます。

（1）業務の予定量でございますが、年間総給水量の計が、補正前と比べまして23万3,770立方メートル減少の6,631万3,030立方メートル、一日平均給水量の計が、補正前と比べまして641立方メートル減少の18万1,679立方メートルを予定しております。

また、建設改良工事につきましては、吉野川北岸と阿南の両工業用水道の合計で、補正前と比べまして3億6,349万8,000円の減額となる9億5,206万1,000円を予定しております。

続きまして、8ページから9ページの、（2）収益的収入及び支出についてでございます。

8ページをお開きください。

収入としまして、給水収益の減額、392万3,000円など、補正前に比べまして、収入全体で、621万4,000円の減額となる、12億229万6,000円を計上しております。

続きまして、9ページを御覧ください。

支出としまして、人件費の減額、3,932万1,000円など、補正前に比べまして、支出全体で、8,074万9,000円の減額となる、10億2,941万2,000円を計上しております。

以上、記載はございませんが、収入の計から、支出の計を差し引いた純利益としまして、補正前に比べまして7,453万5,000円の増額となる1億7,288万4,000円を予定しております。

次に、10ページから11ページの、（3）資本的収入及び支出についてでございます。

10ページをお開きください。

収入としまして、国庫補助金であります補助金の増額1億4,760万円、補正前に比べまして収入全体でも同額の増額となる10億5,660万3,000円を計上しております。

続きまして、11ページを御覧ください。

支出としまして、建設改良費の減額3億6,349万8,000円、補正前に比べまして支出全体でも同額の減額となる11億4,087万3,000円を計上しております。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額8,427万円につきましては、減債積立金などで補填することとしております。

次に、12ページをお開きください。

議会の議決を経なければ流用することのできない経費として、職員給与費を3,932万1,000円、交際費を2,000円減額するものでございます。

続きまして、13ページを御覧ください。

平成28年度徳島県駐車場事業会計補正予算についてでございます。

（1）業務の予定量でございますが、ア、建設改良工事につきまして、既設設備改良工事で補正前と比べまして700万円の増額となる1,261万9,000円を予定しております。

次に、14ページから15ページの（2）収益的収入及び支出についてでございます。

14ページをお開きください。

収入としまして、営業外収益の減額41万9,000円、補正前に比べまして収入全体でも同額の減額となる7,595万5,000円を計上しております。

続きまして、15ページを御覧ください。

支出としまして、一般管理費の減額17万2,000円、補正前に比べまして支出全体でも同額の減額となる6,418万5,000円を計上しております。

以上、記載はございませんが、収入の計から支出の計を差し引いた純利益としまして、補正前に比べまして24万7,000円の減額となる1,177万円を予定しております。

次に、16ページをお開きください。

（2）資本的収入及び支出でございます。

収入につきましては、該当ございません。

支出につきまして、建設改良費の増額700万円、補正前に比べまして支出全体でも同額の増額となる1,261万9,000円を計上しております。

なお、収入はございませんので、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1,261万9,000円につきましては、過年度分損益勘定留保資金で補填することとしております。

以上で、今議会に追加提出させていただきました電気事業会計、工業用水道事業会計並びに、駐車場事業会計の平成28年度補正予算の説明を終わらせていただきます。

なお、報告事項はございません。

御審議のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

島田委員長

以上で、説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

岩丸委員

昨年来、自然エネルギー導入というような観点も含めて、小水力発電の取組について質問を重ねてきたところでございます。そんな中で、神山町などで河川の流況調査を行い、採算性を確保するためのトータルコストの削減といったようなことを検討を進めていくというふうに御答弁を頂いたところでございます。

そして、この平成29年度予算の中には小水力発電普及促進事業ということで756万円、また平成30年度の債務負担行為額として1,080万円の予算案が提出をされておりますが、その中で調査検討するといったような場所も具体的にお示しいただけたらと思います。

そしてまた、この事業の今後のスケジュールについて、どういう段取りになっているのか、お聞かせいただけたらと思います。

湯浅電力課長

ただいま、平成29年度当初予算の事業内容と今後のスケジュールについての御質問を頂きました。

まず、平成29年度当初予算におけます小水力発電普及促進事業の756万円につきましては、事業化に向けた採算性をより正確に判断するための河川の流況調査を行うための費用でございます。

なお、流況調査の具体的な地点につきましては、12月の付託委員会での御質問に、神山町を含めて選定を進めていると御回答させていただいておりまして、その後、引き続き、企業局内のプロジェクトチームで現地調査時点での河川流況のほか、既設砂防えん堤などの活用によるコスト削減、それから発電規模の見直しや系統連携、そして地域活性化などの観点から、事業化の可能性について検討いたしました。その結果、有望な鮎喰川水系の神通谷川及び野間谷川の2地点での流況調査を予定しております。

また、平成30年度の債務負担行為1,080万円は、この流況調査2地点のうち、流況調査結果による発電規模、コスト縮減策、収支状況、そして地元の意向など、総合的な視点で判断しまして、より事業化に適した地点選定を行い、概略設計を行うための費用でございます。

次に、今後のスケジュールにつきましては、平成29年度から1年間の流況調査を実施し、平成30年度には概略設計を行いまして、その後、詳細設計及び設置工事を経て、平成32年度からの実証運転に向けて取組を進めていく予定でございます。

岩丸委員

ありがとうございます。

神通谷川といたら神通発電所があったところですし、野間谷川は神領発電所のあったところで、調査研究を進めてもらい、小水力発電の先導的な取組をやっていただけるのは非常に有り難いなと思っておるところでございます。

神山町というのは山も急しゅんでありますし、水量自体も相当ありますので、小水力発電には本当に適地だなと思っておるところであります。徳島県内は案外そういう、新たに

小水力発電を行えるような場所というのは相当あるんじゃないかなと思います。

是非、この事業でのいろんな検証を経て、コストダウンもしっかり図っていただいて、県内全般に広めていただきたいと思うんですけれども、そういったところでの所見というのをお聞かせいただけたらと思います。

湯浅電力課長

市町村と連携し、全県に小水力発電を進めていけばいいのではないかと御質問を頂きました。

小水力発電の事業化には、流量や落差など適地としての基本的な要件のほかに、発電の規模や設備方法など、個別の設置条件に合わせた建設コストの削減策や維持管理の省力化などによる採算性の確保、送配電線への連系接続などの課題がございます。

この小水力発電普及促進事業では、先導的な取組としまして、事業化の有望地点として選定した神山町におきまして、既設の砂防えん堤などを活用した水力発電導入のコスト削減の実証実験を行うものであります。

エネルギーの地産地消と地域活性化につながる小水力発電の導入及び運営には地域の方々の理解と協力も不可欠であります。今後、進めていく流況調査や概略設計におきましても、地元神山町と連絡を密にし、そして連携して、導入に向けた取組を確実に進めていくとともに、県内のほかの市町村に対しましても、県民環境部と連携しまして、説明会を開催するなど、地域の取組による地域経済活性化や防災力強化など、それにつながる新たな適地の開拓に向けまして、情報提供や技術支援に引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

岩丸委員

是非進めていただきたいと思います。

今も御説明いただきましたが、説明会等の開催ということもありますが、まず、地元の方々というのは歓迎するんでないかなと思います。これは確実なことではないんですけれども、そういう受け止め方をしている方が多いんじゃないかなと思っておりますし、取組が始まったら、是非、私自身も見せていただけたらと思っております。特に地元市町村との連携というのは密にして進めてもらいたい。この取組によって、県内一円に小水力発電が普及できたら非常に良いんでないかなと。脱炭素社会の実現、地域活性化又は災害時の地域の非常電源にもなるんじゃないかなと思いますので、この事業をしっかりとやっていただいて、良い方向にさせていただくことを是非お願いして終わりたいと思います。

岩佐委員

私のほうからも、以前10月の付託委員会の中で質問させていただいたことの経過ということで、自然エネルギーミュージアムに関して、何点かだけ質問させていただきます。

10月の付託委員会で、7月に開設をして、その後の入館者数等を尋ねたんですけれども、その後、10月以降の、例えば入館者数であったりとか、また団体の方々にも来てもらうと

いうことで教育機関への働き掛けをしていくというようなことだったと思うんですけども、その後の状況について、少し教えていただけますか。

川真田企業局次長

岩佐委員のほうから、ミュージアムの入館状況、あるいは団体の状況、教育機関への働き掛けの3点について御質問を頂きました。

まず、入館者の状況でございますけども、昨年7月23日にオープンし、平成29年2月28日までの入館者数が1万3,001名ということでございます。

それと、団体誘客についても様々な形で進めており、この2月末までの団体者数が56団体、延べ人数にいたしまして1,292名。そのうち、学校関係者の遠足等につきましては、8団体の延べ180人でございます。

それと、教育機関への働き掛けについてでございますけども、また繰り返しになりますが、川口ダム自然エネルギーミュージアムは次代を担う子供たちに自然エネルギーの大切さやデジタルアート、ロボットなど、最先端技術について見ながら学んでいただくということを目的としておりますので、教育委員会とも連携を当初から図っているところでございます。昨年の2月の下旬には教育委員会を通じまして、各学校行事に組み入れてもらうように働き掛けをし、また、昨年の5月には校長会にも参加して、呼び掛けを行いました。昨年12月には香川県、兵庫県、大阪府、和歌山県の隣県に対しても、教育委員会を通じましてミュージアムの活動について依頼をするなどしているところでございます。

さらに、県内ですと、南部を中心に地元の教育機関にチラシを配布することなども行い、また、更にこの1月からは館長自らも11校ほどの学校訪問しているということで、教育委員会のほうとも連携を深めて対応している状況でございます。

岩佐委員

1万3,000人を超えたということなんですけども、やはり冬場においては入館者数というのはどうしても減少すると思っております。また、いろんな団体にも来ていただいているようでありますので、今後も引き続いていろんなところに働き掛けというのは、お願いしたいと思います。

また、その10月の付託委員会でも、特にリピーターの確保や、今後の展示物をどういうふうにしていくのかというような質問をさせていただきました。また、加えて、当然ダム湖の周辺ということで、那賀川流域の豊富な自然というのも展示ができないかというような質問をさせていただいたんですけども、答弁の中で、場所がやっぱりどうしても狭いので、大型の4Kモニターで、映像を流したりとか、また映画祭の作品を上映するというような答弁もあったかと思うんですけども、それについて、今の状況というのを教えていただけますか。

川真田企業局次長

まず、リピーターの確保についての対策ということでございますけども、従前の環境学

習室の施設での自然エネルギーの仕組みの学習でありますとか、また映像展示室等のデジタルアートに加えて、プログラミングロボットなどを新たに備えて、施設の充実を図るとともに、段ボールクラフト、空気砲、水素実験教室、ペットボトルロケット、星空観望会など、様々な催物をしまして、皆さんに飽きさせない工夫ということで対応させていただいております。

今後もしろんな形で飽きさせない工夫をやっていくということで、日本科学未来館等とも連携しておりますので、新たな超伝導の実験装置をまた3月にも開催予定でして、そういったろんな催物をやっていくことを考えております。

続きまして、4K画像についての今の現状についての御質問でございました。

4K画像については、まず岩佐委員のほうからもお話がありました、那賀川は非常に自然豊かなところであるということで、水生生物について展示をしたらどうかということでございました。ただ、先ほどもお話ししましたように、非常に狭いということで、水生生物を4K画像で撮影してまして、那賀川に生息します42種類の魚類のうち、希少種の中心となります15種類の魚類を現在撮影を終えております。また県立博物館等の監修を頂き、解説を加えて今編集中でございまして、3月下旬にはミュージアムで見ただけの予定でございます。

そのほか4K画像については、先ほども、岩佐委員からもお話を頂いたように、様々な映像コンテンツを入手してございまして、例えば、「林こずえの業」でありますとか「若葉のころに」、まだこれは、加工が必要ですので加工したり、あとは秋にも行ったデジタルアートでありますとか、ミュージアムのオープンセレモニーや、あるいはドローンで撮影した冬、春、夏、秋の風景や、あと那賀町にまつわる大轟の滝、大釜の滝とか、太布織り。そういったものを併せて映像コンテンツを充実させて、皆さんに御覧いただくような形を考えておるところでございます。

岩佐委員

その後、いろんな取組をしていただいているようであります。映像においてもいろんな希少種の撮影もして、3月からは上映するということであるんですけども、本当にその今されている取組を、しっかりと知ってもらふこと、先ほどもいろんなところで働き掛けをしているということなんですけども、まずは周知というのが重要だと思いますので、そこらに力を入れて、たくさんの人に来てもらえるようにと思います。

また、加えて、事前委員会でも少し話は出たんですけども、カヌーの拠点というようなところもあります。カヌーは水面に近いところを人力で行くということで、自然に触れ合える機会というのはたくさんあると思うんですけども、ミュージアムを核として、カヌーであったり、今あるスマート回廊があるんですけども、その地域一帯となって、今後どのように活用して那賀町のにぎわいづくりをしていくのか、今後の方針というのがあれば教えていただけますか。

川真田企業局次長

今、岩佐委員から、川口ダム自然エネルギーミュージアムを核としてスマート回廊について、それぞれの施設が連携してどのような形で地域振興をするのかという御質問を頂いたところでございます。

事前委員会でもお話しさせていただいたとおり、川口ダム湖で、ドイツのカヌーチームを2020年の東京オリンピック・パラリンピックに誘致するということを目指しまして、那賀町がカヌーの艇庫を設置するんですけども、その艇庫の用地を提供し、整地したり、外灯というのは企業局がやらせていただきます。栈橋でありますとか艇庫自体は、ドイツのカヌーチームが誘致が終わった後も、地元的那賀高校がカヌー部の、拠点となって活動できる、あるいは、あいあいらんどの方でカヌーを通じたイベントなどを企画しておりますので、そういったカヌーを通じて人々が交流できる、皆さんが集まっていられるようなことができるのではないかと考えておるところでございます。

そのほかにも、4月1日からスマート回廊周辺の各施設を利用しましたスタンプラリーを行いまして、スマート回廊あじさい湖さくらまつりというのが、もみじ川温泉を中心に行われるんですけども、その中に、ミュージアムを含め、相生森林美術館でありますとかあいあいらんど、もみじ川温泉等、様々な団体が協力をして、みんなで盛り上げていこうということで今準備を進めておるところでございます。また、夏休みは、スマート回廊周辺施設を利用して県外から来ていただくような集客イベントも今準備をしておるところでございますので、今後につきましても、スマート回廊周辺から、にぎわいづくりを継続して努めていきたいというふうに考えておるところでございます。

岩佐委員

様々な取組を通して地元的那賀町のにぎわいづくり、その拠点となるようにまたしっかりと取り組んでいっていただきますとともに、そういう環境学習はしっかりとできて、今度春に移転するエコみらいとくしまとも、またしっかりと連携をして、これから暖かくなる春、夏にかけて、たくさんの方が来て、学習をして集えるようなそういう場所にしていただけますよう要望して終わりたいと思います。

杉本委員

前からお願いしております魚道のことについてお尋ねをさせていただきたいんですが、御承知のとおり、あの長安口クラスのダムが戦後すぐに全国で200余り作られて、そのときには基本的には利水、特に発電が重点でつくられたダム。その後、環境問題が出てきまして、治水、利水、環境というふうに入ったんですが、我がほうでは長安口のダムが、約500億円に近い予算で改良工事が進んでいる。その割には、環境というものに一つも触れられとらんでないかというのが地域の方の意見です。3,000名の署名。これ1万人に足らん人口のところで3,000名の署名というのは、感じていただいておりますのかな。徳島県全体の人口で割合を考えたら何人になるんでしょうか。それだけの名簿が1週間ぐらいでできたんですよ。子供も二、三人入っているとうわさも聞きましたけど、それは別として、そういう背景で質問をさせていただいてここまで来たわけですが、最初にお尋ねした

いのは、企業局の今までの取組を説明していただきたい。

石井企業局副局長

川口ダム魚道設置について、企業局の今までの取組の総括というようなことで御質問を頂いております。

杉本委員の御質問にありましたように、約3,000名の署名や杉本委員の本会議での御質問を企業局といたしましては真摯に受け止め、昨年の2月に那賀町を設置主体といたしました町や町議会、漁業関係者を含む住民代表を構成員とする検討委員会に企業局も参画しまして、魚道についての検討や漁業の振興策について議論を重ねてまいりました。

検討委員会といたしまして、まず陸封アユの研究。通常アユは、まず秋ごろに産卵いたしまして、川の河口の汽水域で成長いたしまして、4月から5月にかけて上流に向かって遡上しますが、陸封アユはダム湖で成長し遡上すると、こういうアユのことを言います。

それと、効果的な魚道の研究を進めていくという二つの意見集約がなされました。

これらの研究を行うには、魚類に関する専門的知識や地元関係者の協力が不可欠であるため、検討委員会の下部組織といたしまして、企業局、那賀町、県水産研究課、地元漁業協同組合をメンバーにプロジェクトチームを結成し、徳島大学の専門の先生にも参加いただきまして、去る12月に第1回会議を開催し、放流アユの稚魚の種類の検討であるとか、放流先、また効果的な魚道の調査研究について検討を進めているところでございます。

杉本委員

陸封アユは今までも何度か私どもも放流しておりますし、私も去年、肱川を見てきました。

私は、アユの釣り仲間から紹介されて行きましたもので、向こうでは釣りがうまいという人が待っていておりましたので、陸封アユの何たるかは私もよくわからなかったんですが、ただ、わかったことは、当たり外れの年が多いんですね。うまくいった年には十分対応できておるようですが、そうでない年も随分あるということです。もともと私は懐疑的なものを持っただけなんですけど、その効果的な魚道の検討に入りましたと答えがありましたが、河川法に環境というのが入って、あっちこっちで、何百億円もする魚道もできてますけれども、私が調べた範囲では、必ずしもその投資効果に合うだけの環境が返ってきているのかどうかという懐疑的なものが随分あると思います。十分に効果的な、これ言葉にすれば簡単なんですけど、これって大変難しいんでないかと思う。気象状況にもよるし、水の出方にもよる。ただ、言えることは、長安口から砂利の放流を減らして、河川が随分と環境が良くなってきて、去年、おとし、3年ほど続けて、驚敷あたりではびっくりするほどの稚魚が秋までいたというんですね。それが餌が足らなくて大きくなれなんだん違うかというほど数が増えている。ですから、これを何とかうまく捕まえてもらえれば随分と生きてくるんじゃないかというような気がしますが、これから来年度は具体的にどのようなことをなさるのか、取り組んでいくのか、よろしくお答えいただきたい。

石井企業局副局長

来年度の取組といたしまして、まず稚魚の放流を実証実験として行いたいと考えております。具体的には稚魚の放流は遅くとも5月中には行いたいと考えており、それに間に合うように陸封アユの稚魚の放流準備を地元漁業協同組合の皆さんと連携しまして現在進めているところでございます。確かに陸封アユというのは非常に難しい。これは十分承知の上です。時間をかけて、陸封アユ型のアユの放流を続けていきたいと考えております。

また、放流の後、産卵状況であるとか生育調査、ダム湖での水質や環境調査などを行いたいと考えております。

次に、効果的な魚道の検討ということですが、例年4月中旬には、委員がおっしゃるように、アユが遡上してきます。川口ダム直下にかかなり集まると聞いております。この遡上している天然のアユを網などを利用して捕獲し、ダム上流に運ぶ実証実験を漁協の皆さんと一緒にしたいと考えております。

これらの取組というのは、いずれも専門的な知識や知見が必要となりますので、徳島大学の先生にも御協力を頂くことで現在、話を進めております。

杉本委員

いろいろ方法を考えていただけるのはそれなりに結構なんですけど、早くしていただかんと、何年ぐらいで計画がきちっと仕上がるんだろうか。

石井企業局副局長

先ほども少し申し上げましたが、陸封アユというのは非常に難しく、実際に私も聞くとところによりますと、できている所でも、いろいろと環境が変わりましたら、再生産されなくなるというような状況も聞いております。少なくとも二、三年ではちょっと難しいだろうと考えてますので、5年ぐらいの期間で陸封アユの研究はやっていきたいと考えております。

杉本委員

どう思っても、5年は長過ぎる。そして、5年もかけるものでもない。それほど難しい話でもない。またこれ、ごねごね言わせていただきますが、命が足らんのや。だって、組合員の平均年齢考えてみてみない。いずれにしても、投資効果という言葉があるように、時間もやっぱり投資効果のうちです。ですから、計画の段階、今からきちっと予算を使わなければ、いつまでも引っ張って、良かったらとかいう話ではないと思う。

せめて、長安口ダムの改良工事が完成するまでには、これだけのことをしましたというものになかったら、3,000人の署名の意味がなくなるんでないか。御答弁を。

石井企業局副局長

確かに5年というスパンというのは今計画で考えてるだけの話でありまして、今後、こ

のプロジェクトチームで漁業協同組合の皆さんも含めていろいろと議論していきたい。この陸封アユの研究もそうですし、この河川環境が良くなるような議論を重ねていって、いろいろ御意見を聞きながらこの事業を進めたいと考えております。

杉本委員

河川的环境というのは、下流の水生動物が上流に上って、上流が下流に返ってくる。これが完全な環境なんです。ここまでもっていくということになれば、川口、長安口、小見野々越して、あと木沢もありますが、これこんなに時間をかけていったのでは、何百年やという話になっていくでしょう。ですから、法律ができてもう既に二十何年ですか。まだ手つかずですから、これの第一段階として、効率的なと私もこのように考えて申し上げるんですから、是非とも予算も入れ、手間も入れしてやっていただかんことには、する意味がなくなってくる。是非ともお願いします。

黒石企業局長

杉本委員からの魚道についての質問でございます。

この魚道につきましては、昨年の9月議会の本会議におきまして私のほうからも御答弁させていただきました。1点は陸封アユの研究、そしてもう1点が効果的な魚道の研究ということでございます。

この2点について、今も石井副局長から説明も申し上げまして、また今後の方向性も見据えたところでございますが、やはりこの陸封アユの研究、少し難しい点はございますけれども、杉本委員おっしゃるようにできるだけ早く結果を出していくという姿勢で臨みたいと思っております。

また、効果的な魚道の設置ということで、これやはり大学の先生からいろいろな御提言も頂いております。やはり、より効果的に行うということで、早速、来年度その川口ダムの下流に集まったアユを上流域に持っていくということで、この方法であると長安口あるいは小見野々辺りのダムの上流へ持っていくことができるということになります。この方法が効果的、現実的な内容であろうというふうに考えておりまして、企業局としても最重要課題としてこれに取り組んでまいりたいと思っておりますので、御理解、御協力をお願いできればと思っております。よろしく申し上げます。

杉本委員

是非お願い申し上げて終わります。

島田委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。

ただいま審査いたしました企業局関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって企業局関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第22号、議案第23号、議案第24号、議案第25号、議案第69号、議案第70号、議案第71号

以上で、企業局関係の審査を終わります。

本年度最終の委員会でございますので、一言御挨拶を申し上げます。

黒石企業局長をはじめ、理事者各位におかれましては、常に真摯な態度をもって審査に御協力いただき深く感謝の意を表する次第でございます。

また、審査の過程において表明されました委員の意見並びに要望を十分尊重され、今後の施策に反映されますよう、強く要望してやまない次第でございます。

また、非常に不慣れな委員長でございますが、理事者をはじめ委員の皆様方に御協力いただきましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

終わりに当たりまして、皆様方には、ますます御自愛いただきまして、それぞれの場で今後とも県勢発展のため御活躍をいただきますよう祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

黒石企業局長

企業局を代表いたしまして、一言お礼を申し上げます。

島田委員長さん、寺井副委員長さんをはじめ、委員の皆様方には、この1年間、電気事業ほか3事業の管理運営につきまして、格別の御指導、ごべんたつを賜りまして、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

また、今議会に提出させていただきました案件につきましては、原案のとおり御承認いただきまして、重ねてお礼申し上げる次第でございます。

委員の皆様から賜りました、様々な貴重な御意見、御提言を今後の経営戦略に充分生かし、更に効率的な管理運営を心掛けますとともに、県民福祉の増進に寄与できますよう、一層の経営努力をしてまいりたいと考えております。

委員の皆様方には、今後とも、なお一層の御指導、ごべんたつを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。お礼の御挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

島田委員長

議事の都合により、休憩いたします。（11時19分）